

# 清友

No.172

2023年12月  
(2023年12月12日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



トウキョウドームシティ  
イルミネーション



## イスラエルのガザ虐殺をトメロ!

### 日本政府は即時停戦を実現させろ!

「母親が子どもたちのからだに名前を書き入

れる。からだにバラバラにされて誰だかわからなくなってしまうようにだ」、これがガザ地区です。一時休戦はたった7日で終わり、イスラエルによる無差別攻撃が再開され、子どもや病人を含む多くの民間人が殺害されています。

### イスラエルに正義はない

世界人権デーの12月10日、『パレスチナに平和を！日本政府は停戦を実現させろ！全国一斉アクション』が開催され、東京では国会正門前で集会が開かれました。

ガザ地区出身者、パレスチナにルーツがある市民・学生、ガザ地区で活動している医師、人権活動家などが次々と発言、中東研究者の千葉大教授栗田禎子さんは、「大英帝国がつくったイスラエルはスタート地点から植民地主義的で人種

差別的な性格を有していた。戦争のやり方はアメリカそのもの、テロリストとレッテルを貼り殲滅する。民間人殺害を厭わない。アメリカのやり方がガザに現れている」「日本

が、ガザ即時停戦『安保理決議』に賛成したのは、われわれの運動が影響を与えている。イスラエルに経済制裁、外交制裁すべき、戦争犯罪として裁くべきだ」と力説しました。

### 9条に基づき停戦を主導する

パレスチナにルーツをもつ女性は「75年前、イギリス支援のもとイスラエルにより故郷を追われた。イスラエルはパレスチナ人をナチスと同じ目線で対応してきた。イスラエルがやっていることは戦争ではない、民族浄化だ。パレスチナ人は自分たちの土地で難民キャンプに押し込められ、監視され、自由はない。占領政策が続いている。イスラエルは犯罪国家だ。世界は75年

に亘りパレスチナ人を裏切ってきた。パレスチナ人であるというだけで苦難にみちている」と切々と訴えました。

日本政府はアメリカ追従をやめて、憲法9条に基づき即時停戦を主導すべきです。パレスチナに自由を！平和を！



# みんなで集まるのは…♪ ホントに楽しいですね♪

## ガイドと歩く谷中めぐり



谷中霊園「さくら通り」にて



谷中霊園・渋沢栄一墓

11月14日10時 JR「日暮里」駅北改札口に集合し、秋のフィールドワーク「ガイドと歩く谷中めぐり」。参加者17名、2班に分かれて出発。

御殿坂をすぐ左、幸田露伴旧宅跡と朝倉彫塑館天王寺玄関をみて谷中霊園へ、牧野富太郎はじめ明治・大正・昭和の著名人の墓見学、数奇な運命に翻弄された天王寺見学後、さくら通りを経て幸田露伴『五重塔』のモデル天王寺五重塔跡、再び谷中霊園へ、渋沢栄一、徳川慶喜、その他の墓見学、

狩野芳崖の墓がある長安寺と観音寺築地塀を見学して、日暮里駅南改札手前で終了。『海王酒場日暮里店』にて、ランチ宴会というコースでした。

事前打合せと違う「墓ばかり」に、「墓以外」の希望を伝えたら、「谷中は墓しか観るところなんか無い」とガイドが。ムムム？ 参加した方が「墓も面白かったよ」と言ってくれたのでホッ。また、『海王酒場店』も料理はまあまあだが接客がうーむ。楽しかったけど、ちよつと微妙かなあ…。

# 年明け以降の主な行事

12月1日に第3回幹事会。専門部会を開催しました。幹事会構成員の家庭の事情により午後2時開会としたため、最低限決める必要がある来春の行事企画のみ議論しました。

## 1月27日に新春の集い

日時 1月27日(土)  
11時45分開始  
会場 飯田橋「楼蘭」  
会費 2千5百円



例年好評の長寿・喜寿お祝い、開運くじ引き大会など「お楽しみ会」も行います。ただし、物価高騰の

おり、申し訳ありませんが、会費を5百円引上げしました。

## 2月中旬に観劇会予定

★実施案 『浅草木馬館』  
昼の部 (12時～15時30分)  
★参加費 500円の予定

※観劇後、近くの居酒屋で参加費自己負担により交流会。

という企画ですが、2月は劇場のイベントがあるなど不明要素が多く、企画倒れになる危険性もあります。実施できるかは1月にお知らせします。

2023年 12月公演

### 章劇

12月1日(土) 夜  
12月17日(日) 夜の部まで

劇団 園澤村章太郎  
園澤村章太郎  
園澤村紫龍  
園澤村紫龍

浅草木馬館 浅草区 03-3842-0709  
浅草区 03-3845-0421

## 3月11日に学習交流会

日時 3月11日(月)  
13時15分開始  
会場 清掃会館ホール  
テーマ 頻尿と生活習慣病、健康で長生きするために  
講師 平野敏夫さん  
(東京清掃顧問医)  
交流会 会費500円予定

## 3月下旬にお花見の会

〈開催日〉 3月下旬  
〈場所〉 飛鳥山公園を予定  
〈打上げ〉 王子あたりで一杯  
※参加募集は2月の予定

## 自治体退職者会東京都本部第34回定期総会

全日本自治体退職者会東京都本部（自治退都本部）第34回定期総会が、10月30日、田町交通ビルで開催され、代議員として佐藤副会長と岡澤副会長が参加しました。

### 反戦平和とジェンダー重視

楠田会長は主催者挨拶で「岸田軍拡路線に抗し、反戦平和の取組みを強めていきたい、都本部としてもジェンダー平等の実現は重要課題、再来年の参院選は岸まきこを当選させよう」など訴えました。



### 複数の単会から貴重な意見

活動方針案の審議ではいくつか意見が出ました。

港退は「退職後の労使が一体となって会を発展させてきた。都本部の労組的対応には違和感がある。単会の実状把握をできているのか疑問」、練馬退は「集会通知の遅い例があった」と苦言、三鷹退の横田基地PFAS問題など、府中退と東久留米退から単会の取組みが報告されました。

予算については、「繰越金の減少」に懸念が示されました。議案は原案通り確認、新役員は次の通り承認されました。

- ◇会長 楠田正治さん（江戸川）
- ◇副会長 山岸 皓さん（東交）
- ◇副会長 松島恒春さん（新宿）
- ◇副会長 大島信子さん（立川）
- ◇副会長 関口広行さん（労働）
- ◇事務局長 鴨居 守さん（東交）
- ◇事務局次長 赤久保清美さん（直属）
- ◇会計 近田太郎さん（病院）
- ▽幹事 岡澤 徹さん

（文と写真、岡澤徹）

## 都庁退第21回定期総会と20周年記念式典

11月24日、東京都庁職員退職者連合会（都庁退）第21回定期総会が都庁第二庁舎の都庁職会議室で開かれ、終了後、都庁第一庁舎の職員食堂で都庁退結成20周年記念式典が行われました。

定期総会には、幹事・代議員として佐藤副会長、岡澤副会長、箱田幹事、瀬瀬幹事、記念式典に戸枝事務局長も加わって5人で参加しました。

### 小林会長勇退、関口新会長

小林会長の主催者挨拶と、鎌滝自治労都庁職委員長、楠田自治退都本部会長の来賓挨拶後、議事に入りました。

すべて原案通り承認されましたが、活動方針案の審議で、岡田元会長より「芳野連合会長が何を言おうが無視し、野党を統一して政権をひっくり返す運動を各地域で起こそう」という意見表明がありました。役員は、小林民治会長（都市環境）が体調のことでもあって勇退されました。長い間、お疲れ様でした。

新役員は次のとおりです。

- ☆会長 関口広行さん（労働）
- ☆副会長 中井陽子さん（福祉）
- ☆副会長 広野富雄さん（都環）
- ☆事務局長 前島国臣さん（主税）
- ☆事務局次長 鈴木利明さん（実市場）
- ☆会計 近田太郎さん（病院）
- ▽清掃選出の役員

- ▽会計監事 佐藤晋一さん
- ▽幹事 瀬瀬 朗さん

総会終了後開催された結成20周年記念式典は、コンパクトな会でした。（岡澤徹記）



都庁職連合結成20周年記念式典（都庁第一庁舎職員食堂）

# 年金・介護と医療・マイナカードなど 地公退・総務省要求と回答



地方公務員退職者協議会(地公退)は、9月13日、岸まき子参議院議員立会いのもと「総務省要求」を提出し、即日回答を得ました。総務省側は例年同様「所轄ではない」とする事項は回答しませんでした。主な回答◆は以下の通りです。

## 年金制度改善

▼要求：①年金制度と財政安定化へ、雇用・賃金改善、次世代育成支援を図ること。②マクロ経済スライドは、現受給者の年金を守りつつ将来世代が貧困に陥らない水準を重視すること。③基礎年金拠出期間を45年に延長し、給付金増加分も1/2国庫負担を堅持すること。④短時間労働者の適用を抜本的に拡大すること。◆年金制度は、年金生活者と現役世代の理解を得ることが肝要。制度改正には社会保障審議会年金部会等の十分な議論が必要。部会では、次期年金制度改正に向けた主な検討

事項の議論が開始されている。◆雇用安定・質向上、賃金改善へ、地方公務員の臨時・非常勤職員任用適正化のため、20年から会計年度任用職員制度が導入され、24年から勤勉手当が支給されることになった。また、公務員定年は段階的に65歳まで引上げられる。◆今後も引き続き、社会保障審議会年金部会等における検討の状況を、十分注視したい。

## 年金積立金の運用方法

◆地方公務員共済組合の積立金運用は運用最低限のリスクでの利回り確保を目的に、政府指針の下、適正に行われる。◆国連「責任投資原則」の趣旨を踏まえた社会的責任投資を実施しており、今後、さらに検討が進むと考えている。

## 沖縄の追加費用削減緩和

◆追加費用削減は本人負担が少なかった恩給期間分を調整するもの。沖縄の追加費用期

間が長いのは沖縄以外の地共済法適用62年12月、沖縄は66年7月で恩給期間が違いため。◆追加費用削減は、①減額率上限を年金全体の10%、②年230万円以下の給付は減額しない措置を講じ、配慮している。

## 地域包括ケアネット整備

◆地域包括ケアシステム構築は「団塊の世代」が75歳以上になる25年を目指しており、地域医療と介護を総合的に確保する取組みを進めている。また、介護基盤整備は、地方

財政措置と地域医療介護確保基金による財政支援が行われている。厚労省に所要の国費確保を要請、適切に地方財政措置を講じ、介護基盤の計画的整備推進へ向けて対応する。

## ジェンダー平等

◆男女共同参画基本計画を踏まえ、地方公共団体での女性活躍・働き方改革の取組みを支援。また、ハラスメント防

止の実効性確保へ助言を行う。

## 生活保護・生活困窮者自立

▼要求：生活保護基準の復元、生活困窮者自立支援策の確実な事業実施◆回答なし。

## 税制(ふるさと納税)

▼要求：将来的廃止を目指し、返戻品競争の歪みを正すこと。◆回答：一定のルール下、適正な運用に取組んでいる。返戻品は地場産品基準適合を求められる。一層の適正化を図る。

## 住宅政策

▼要求：住宅困窮者解消へ公営住宅増設など◆回答なし。

## デジタル化・マイナカード

◆デジタル化により業務効率化が図られる。地方自治の本旨を尊重し、取組みを進める。◆マイナカードの保険証利用は、データに基づく診療・薬剤処方や自身の情報閲覧などにより健康増進が期待される。

## 脱原発・カジノ法廃止

▼要求：①原子力・化石燃料発電見直し、②カジノ賭博合法化法廃止◆回答なし。

# 沖縄も日本も戦場にするな!

11月23日、沖縄で『沖縄を再び戦場にさせない県民の会』主催の「平和大集会」が開催され、1万人が結集して「戦争反対」「辺野古埋立て代執行反対」の声を上げました。

これに呼応し全国各地で行動が行われ、東京では「国会正門前行動」がもたれました。

## 南西諸島は戦争最前線化

集会では、南西諸島の戦争



最前線化が告発されました。

▼奄美大島：米軍訓練が強化、徳之島や奄美空港でタッチアンドゴーが強行されている。

▼宮古島：珊瑚礁破壊や死体収容訓練が行われ、西表島では住民用遺体収容袋が準備された。島を捨てる計画があり、住民を九州に移すという。

▼種子島：戦車が一般道走行、空港や港湾で訓練が行われている。基地建設で生活環境が悪化、暮らしが破壊された。

▼石垣島：琉球弧が基地列島化している。ミサイル戦争は島の力だけでは止められない。▼与那国島：救助訓練が行われているが、住民は不参加、住民を守るものではない。

## 岸田軍拡政権打倒!

政府は、米国の中国包囲戦略に追従して「台湾有事」を煽り、長距離ミサイルを配備しようとしています。南西諸島を戦場にする戦争計画です。「沖縄も日本も戦場にさせない」、岸田軍拡路線を止めよう。

# 沖縄から考える岸田政権の戦争政策

9月26日に開かれた「沖縄の風伊波洋一参議院議員講演会」の概要を報告します。

『安保法制』以降、南西諸島が軍事化された。今後、全国の自衛隊基地強硬化が進められ、軍事化が計られていく。15年改訂の『日米新ガイドライン』で、「米軍は自らの打撃力を使わない」方向に変更された。西大西洋地域での軍事力は中国の方が優位なので、アメリカは中国と戦争しない。

日本に戦わせるといのがアメリカの戦略。南西諸島での制限戦争が想定される。核大国中国に対抗した軍事力増強は無理。「台湾有事」は中国からすれば「国内問題」。日本が中国を攻撃すれば「敵国条項」にふれ、日本への攻撃は許される。日本を守るのは日米安保ではない。外交だ。米のための戦争をやめよう。



パレスチナ民衆への無差別虐殺で1万7千人以上（4割が子供だ）が殺されている。連日のように行われている、イスラエル大使館前の抗議行動や新宿・銀座などのデモに

参加。世田谷区内での『九条の会』による「虐殺やめろ」街宣（36人）や1000人委員会総会での訴えには退職者会2人で参加した。労組がなかなかとりくめない中、1人でも多く声を上げ続けなければ。支持率が低下しても軍拡・戦争準備の岸田政権はイスラエルの「自衛権」を認める、バイデン追従。東京清掃の「平和なくして労働なし」のメーデースローガンを思い起こし、退職者もがんばろう! (森 遵記)

## 賃金確定闘争の結果

### 1. 人事委員会勧告の取扱い

#### \* 勧告どおり実施

- 〈月例給〉 勧告給料表のとおり改定  
0.98%、本年4月から適用
- 〈一時金〉 勤勉手当を0.1月引上げ  
(年間支給月数 4.65月)

### 2. 業務職給料表

#### \* 行政職給料表(一)に準じて引上げ

### 3. 会計年度任用職員の給与

#### ① 勤勉手当の導入

- 〈開始時期〉 24年6月期から支給
- 〈支給対象〉 任期が6か月以上の者
- 〈支給月数〉 一般常勤職員と同様
- 〈成績率〉 24・25年度は成績率の下位、最下位分布率および、一律  
抛出割合を0%

#### ② 給与改定時期見直し(23年実施)

- \* 常勤職員の取扱いに準じる  
ただし、任期が3か月以内の者除く

#### ③ 期末手当支給月数の取扱い

- \* 24年度から勤勉手当を支給すること等を踏まえ、23年度に限り、常勤職員の特別給改定月数と同月数を  
上乘せする特例措置を実施  
12月支給期末手当支給月数 1.3月

### 4. その他の課題に関する区長会回答

#### (1) 担当技能長

- \* 引続き、各区における運用状況を労使で検証し、課題の共有化を図るとともに、必要に応じ協議を重ねていく。

#### (2) 5号転(技能V⇔技能VI転職)

- \* (年齢制限撤廃等) 身体を酷使する清掃職員の強い要求があることを受け止める。

#### (3) 就職氷河期世代採用

- \* 制度の導入にあたっては、各区の意向や制度趣旨を踏まえ、慎重に検討。

#### (4) 熱中症対策

- \* 年々、過酷さを増す尋常ではない暑さ対策の重要性を理解。

#### (5) 業務職給料表水準および人事制度に係る意見交換の場を精力的に進めていく。

# 東京清掃 23 賃金確定



※写真は東京清掃提供



第三波総決起集会で挨拶する戸枝事務局長

## 低賃金構造打破

東京清掃は賃金確定闘争にあたり、①

業務職給料表の水準改善、②業務職人事制度改善、③地域手当・一時金等給与制度改善、④高齢期雇用制度見直し、⑤その他諸制度改善の5課題を掲げて闘いました。とりわけ、日本一生計費が高い特別区の職員賃金が政令指定都市最低レベルという異常な状況と、現業賃金が行政職より著しく低いという矛盾を是正させるため、賃金水準

の大幅改善を目指しました。

## 実質賃金改善に至らず

戦術面では4年ぶりに区政会館座込み行動を配置するなどの取組みを行って区長会に迫りました。闘いの結果、11月21日、区長会の最終回答(別記)を受入れ、妥結しました。東京清掃は、「実質賃金の改善には至っていないことは不満」だが、「全級・全号給の給料引上げと、全国一の一時金水準を維持した」こと、「5号転を含め、人事制度等について区長会に課題の認識をさせ

## 社会的労働運動強化に期待

た」こと、「今後の制度改善への端緒となりえる会計年度任用職員の処遇を改善できた」ことなどを成果としています。しかし、今年も結果として人事院・人事委員会勧告の厚い壁が立ちました。東京清掃は、今後の課題として春闘期の闘い、人勧期の闘いを一層重視するとしています。社会的労働運動の強化とあわせ、東京清掃の闘いに期待し、退職者会として応援していきたいと思えます。

# 東京清掃59年次自治研集會に参加して

12月3日、東京清掃第59年次自治研集會が開かれました。退職者会から3名の方が参加。うちお二人から感想を寄せていただきました。

## 辻 芳徳さんの感想

日頃は内部の関係者のみで清掃事業（労働条件や仕事のやり方など）に関して意見交換を行っているが、今回は、外部からの目線で観た清掃事業の在り方の報告にある種の



※写真は東京清掃提供

ショックを受けました。

その報告とは、大東文化大学法学部政治学科3年生の小野塚朱音さんのもので、「技能労務職員」に関する実際の仕事から疑問を抱き現場調査を行った報告です。地方公務員法政令に「単純な労務に雇用される一般職に属する地方公務員の範囲を定める政令」がある、その規定で紹介されている内容に疑問を抱き、現場を調査しその体験に基づき、検証を行ったとのこと。そして、「清掃職員が行う業務は決して単純な業務ではなく、多様なサービスの展開を求められる複雑な業務」との結論に至ったと述べています。

指導教官（立教大学藤井誠一郎准教授）の適切な助言もあると思いますが、普段家庭からでのごみはどこへ行くのか現場を知りたいと思ったこと、で、「目からうろこ」状態でした。小野塚さんの感性を大切にしたいと、強く思いました。

※辻さんから、「現地調査」にこだわった新聞報道の紹介がありました。紙面の都合により割愛しました。

## 森 遵さんの感想

コロナも「5類扱い」になり、確定闘争をはじめ東京清掃の取組みも活気が戻ってきた。

神戸の「感染拡大」や札幌の「雪害」の中での事業執行の話は、現場の苦労にただ頭が下がる。委託拡大による「現場力」後退で災害派遣できない自治体が多くなっている中で横浜が派遣をし、直営の力を示したことは素晴らしいと思った。しかも「メンタルヘルス」まで含めた派遣に当たっての組合の取組みは重要だと感じた。京都の「移動式拠点回収」の取組みは行政側から

の一方通行ではなく、対面での取組みを行い住民との交互通行を行っていることに感心した。

議員からの「超勤したときの手当てや委託業者にしわ寄せがいついていないか」という

質問にハッとさせられた。困難に直面したとき、仕事をうまくやりきるためにどうするかということに頭がいっぱいになりがちだ。仕事をうまくこなすだけでは当局と一緒だ。直営を守り前進するための取組みとして、組合員の意思統一と団結を作りながらやっていくことの難しさを感じた。

藤井先生コーディネイトのパネルディスカッションは改めて自治研とは何か、何を追求しなければならぬかを問い直す機会になったと思う。女子学生の体験・学習レポート報告はただただ感激。

23区の清掃事業も委託が進行する中で、当局の現場に対する問題意識や姿勢が後退しているように感じる。現場の実態や職員の現状や思いを日常的に感じとり、発言できるのは東京清掃しかありえない。

今後は、議員と当局だけでなく、コロナ前のように市民



が言 五郎 田五郎 さんが 発言 している

の参加も追求してもらいたい。参加を望む市民も多い。

# 清掃退職者会の2023年



2月13日、3年ぶりに『演芸を楽しむ会』、16名参加。目一杯笑いました。国立演芸場が建替えて休止は残念。



1月28日、清掃会館近くの「焼鳥すいけん」で、3年ぶりに『新春の集い』、28名参加。久しぶりだから近況報告もエンドレス気味、大盛況でした。皆さんホントに嬉しそうですねえ。

3月11日、「自民党『壊憲』の行き着く先と現在の情勢」をテーマに学習交流会、15名参加。「闘うぞ」と元気が出る講演でした。



講師の加藤晋介 弁護士



小石川後楽園「円月橋」前

6月6日、『戦没者追悼と小石川後楽園ディープな探訪、ちょっと豪華ホテルランチブッフェ』に17名参加。「コース案内超絶」「ランチブッフェも絶品」と大好評、大満足でした。



3月28日、企画してから3回流れた小金井公園『お花見ウォーク』、生憎の雨で、参加者も11名。偶然、開園30周年記念で『江戸東京たてもの園』入園が無料、ラッキー。満開のサクラと昼ビールに参加者ご満悦。



岡澤新副会長

6月16日、清掃会館で『第15回定期総会』開催。25名参加。運営力強化へ副会長に岡澤徹さん、会計担当幹事に箱田修一さんを選任。病氣療養で参加できなかった丹野会長に代わり、岡澤新副会長が「団結ガンバロウ」を发声。コロナを考慮し懇親会は行わず、弁当で昼食会はちょっと残念。



5月1日、日比谷メーデーに21名参加。元氣一杯鍛冶橋までデモをし、打上げも盛況。ただし、残念ながら、若井忠晴さんに会えたのはこの日が最期になってしまいました。



1月19日、東京清掃  
2023 団結旗開き

連帯の挨拶：戸枝事務局長

10月18日、東京清掃  
賃金確定第一波総決起集会

コロナも5類になり、東京清掃の活動もコロナ前に戻ってきました。旗開き、賃金闘争はじめ、東京清掃主催の行事に参加、連携を強めました。



9月22日、平和フォーラムの染裕之さん(元東京清掃委員長)を講師に招き、「つくられた危機を現実にはしない」をテーマに学習交流会。15名参加。

講師の染裕之さん



6月29日、都庁退学習会

9月20日、地公退  
高齢者集会

10月6日、都庁退親睦交流

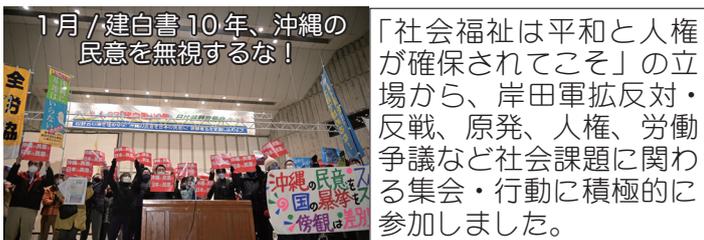
上部団体の活動もコロナ前に戻っています。各種行事に積極的に参加しました。



長いトンネルを抜けるとラピュタの国であった

10月20日、『猿島探検とよこすか満喫ツアー』に14名参加。猿島90分の大冒険は圧巻！最高でした。

11月14日、『ガイドと歩く谷中めぐり』、17名参加。「谷中は墓が見どころ」でも、「墓ばかり」はちょっと微妙…。



1月/建白書10年、沖縄の民意を無視するな！

「社会福祉は平和と人権が確保されてこそ」の立場から、岸田軍拡反対・反戦、原発、人権、労働争議など社会課題に関わる集会・行動に積極的に参加しました。



2月/東京総行動(経団連前行動)

2月/ロシアはウクライナから撤退しろ！



5月/汚染水を海に流すな！

9月/9年目突入の19日行動



3月/さようなら原発

5月/憲法集会



10月/狭山再審市民集会

11月/沖縄も日本も戦場にさせるな！

# 尾澤裁判 労働運動弾圧を許さない！

21年5月、韓国サンケン解雇撤回闘争の一環として、本社サンケン電気へ要請文を渡しに行った尾澤孝司さんが、不当逮捕（逮捕理由は暴行、後に警備への威力業務妨害）されたデッチ上げ事件で、埼玉地裁は今年9月、「罰金刑」を言い渡しました。

## 勝利目指し元気に闘おう

東京高裁の控訴審を前にして、11月29日、文京区民センターで「不当判決弾劾！尾澤



さんの無罪実現！」へ向けた集会がもたれました。

弁護士による検察・裁判批判と今後の闘う課題に加え、労働政策研究者の呉学殊さんが「グローバル経済時代の韓国日系企業の問題と労働争議」韓国ワイパー闘争を中心に」と題する特別報告を行い、元韓国サンケン労組復職闘争委員会議長キムウニョンさんからのビデオメッセージ、『ノレの会』の歌もありと、盛り沢山の集会になりました。

## 事件の核心は運動弾圧

尾澤事件の核心は「労働運動への弾圧」です。検察・裁判所が一体となって「単なる個人の『暴行』と歪曲化」し、果敢に闘う労働運動と日韓連帯運動を抹殺しようという策動です。

だから、この闘いは負けるわけにはいきません。退職者会も微力ながら応援して行きたいと思えます。

# ガザ地区市民への攻撃やメロ！岸田軍拡・改憲発議をトメロ！

パレスチナ情勢が悪化の一途をたどる状況下、11月の19日行動が国会議員会館前で開かれました。

## 男性目線の政治を変えよう 女性の声を行動で示そう！

市民のアピールでは、「女性の声で政治を変えよう」が合い言葉の『市民連合』女性グループによる「フェミブリッジ・アクション」の報告。「衆議院の9割が男性議員、男性目線の政治が進められ、生活者の視点が欠如している」「子育ては女性が担っている。女性が動けば政治は変わる。ご自分の地域でもアクションを起そう」と、全国で展開されている女性中心の街宣運動に対する理解と共闘を求めました。

## ガザの事態は戦争ではない ジェノサイドを許すな！

二つ目の報告は、8月までパレスチナにいた作家の新土さん。「パレスチナはふるさとを残すため闘っている。ジェノサイドは今、急に始まったわけではない。75年に亘り続

いている。ホロコーストに並ぶ事態であり、構造的な植民地主義の問題でもある。ガザで今起きている事態は戦争ではない。ジェノサイドは戦争ではない。イスラエルはヨルダン側の西岸地区も狙っている。ガザで南部へ市民が追いやられているが、帰還できない。いのちをかけ闘っている人びとを見捨てないでほしい」と訴えました。

